

## 【平成28年度事業報告】

### 1 企画委員会、役員会、第23回総会・記念講演会の開催

#### 1) 企画委員会の開催（委員、事務局等11名出席）

日時：平成28年6月10日（金）

場所：仙台ビジネスホテル1階会議室（仙台市）

第23回総会の議案（①平成27年度事業報告、②平成27年度収支決算報告、③平成28年度事業計画（案）、④平成28年度収支予算（案）、⑤会員の状況について、⑥役員を選任について、及び平成28年度予算「知の集積による産学連携推進事業のうち『知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業』」に係る事項、その他研究会の運営等に係る事項について検討を行った。

#### 2) 役員会の開催（役員、事務局等11名出席）

日時：平成28年7月6日（水）

場所：TKPガーデンシティ勾当台 カンファレンス1（仙台市）

総会に先立ち、①第23回総会の議案、②その他研究会の運営等に係る事項について協議を行い、総会提出議案が了承された。

#### 3) 第23回総会（出席者33名、委任状35名 計68名出席）

役員会に引き続き、第23回総会を開催した。

<議事>

- ① 平成27年度事業報告
- ② 平成27年度収支決算報告
- ③ 平成28年度事業計画（案）
- ④ 平成28年度収支予算（案）
- ⑤ 会員の状況について
- ⑥ 役員改選について
- ⑦ その他

審議の結果、提出した議案はすべて承認された。

#### 4) 記念講演会（43名出席）

総会に引き続き、記念講演会を行った。

一般社団法人 日本草地畜産種子協会 放牧アドバイザー 梨木 守氏から「耕作放棄地対策を考える ～牛に任せるのも一法～」と題し、日本の耕作放棄地の実態、耕作放棄地対策、畜産的対策、放牧のメリット等について紹介いただいた。

### 2 知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業

#### 1) 技術交流展示会への参加

農林水産省の主催による「アグリビジネス創出フェア2016」（東京ビッグサイト 西4ホール）において、委託事業コンソーシアムとして出展し、産学連携支援事業における支援先の研究成果等を展示した。当研究会では、農研機構東北農業研究センター、次世代作物開発研究センター、東北大学等の協力により、ポスター・現物（無塩鰺鮓、ゴマ・ナタネ種子・オイル見本等）の展示を行った。

また、同フェアのコーディネーターとして、当研究会のコーディネーター1名が相談対応、マッチングツアーの支援活動を行った。

## 2) セミナー等の開催

農業が地域創生の中核となるために、異なる分野の革新的な発想や先端技術を活用して、東北地域で技術革新や農業ビジネスに取り組むための機会を農林水産・食品産業関係者に提供する場とするためのセミナー等を5回開催した。

また、農林水産・食品産業関係者に対して、技術革新や農業ビジネスに自ら取り組むための「勉強会」を6回開催した。

産学連携による研究開発、事業化においては知的財産の取り扱いが重要であることから、「知的財産」を講演課題として取り上げた。

### (1) 平成28年度第1回勉強会 「花巻で薬草栽培を考えてみませんか」

日時：平成28年6月14日（火） 13：30～15：00

会場：羅須地人協会（岩手県立花巻農業高等学校）（岩手県花巻市葛1-68）

話題提供

#### ①日本の薬草栽培の現状と課題

農林水産省産学連携支援コーディネーター 星野 次汪 氏

#### ②岩手町での薬草栽培の取り組みの歩みとこれから

農事組合法人 岩手薬草生産組合 総務部長 伊藤 浩史 氏

#### ③花巻で薬草栽培を考えてみました

花巻市農業経営改善計画認定者・岩手大学認定アグリ管理士  
小田島 とし子 氏

参加者：26名

### (2) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 平成28年度記念講演会

日時：平成28年7月6日（水） 14：10～15：30

会場：TKPガーデンシティ仙台勾当台ホール5

次第：「耕作放棄地対策を考える ～牛に任せるのも一法～」

一般社団法人 日本草地畜産種子協会放牧アドバイザー 梨木 守 氏

参加者：43名

### (3) 平成28年度活力ある東北農業を創造するためのセミナー（第1回）

「農業経営者、食品産業関係者、研究者の集い」

日時：平成28年7月14日（木） 14：00～17：00

会場：盛岡市産学官連携センター 大会議室

次第：

#### ①基調講演

「農商工連携のためのバリューチェーン、ビジネスモデルの構築」

岩手大学農学部 教授 佐藤 和憲 氏

#### ②発酵産業による農水産業の活性化～一ノ蔵と地域貢献～

宮城県食品産業協議会 会長・(株)一ノ蔵 名誉会長 浅見 紀夫 氏

#### ③業務加工向け野菜の生産者リレー出荷

アグリラボサークル 代表社員 山本 浩 氏

#### ④グループ討議では、生産者の理念を明確にし、対象者にオンリーワンのものを提供するためのビジネスモデルについて、グループごとに具体的な事例に即して検討し、その結果を発表した。

参加者：38名

(4) 平成28年度第2回勉強会 「岩手県における水田作の生産性向上の工夫と地域作物の生産・加工販売を考える」

日時：平成28年8月25日（木） 13：30～16：00

会場：農研機構東北農業研究センター セミナー室

話題提供

- ①地元企業と連携した地域作物生産と大豆、野菜を組み合わせた土地の高度利用により耕作放棄された農地を再生  
（農）金田一営農組合 代表理事 五日市 亮一 氏
- ②水稻⇒麦⇒大豆（またはソバ）作付体系の確立により収益性の向上を目指す  
（農）ゆいっこの里犬草 代表理事 阿部 幸良 氏
- ③中山間地における水稻・大豆作体系の安定化と地域特産作物を利用した農産物加工、販路拡大作戦による雇用と営農の安定化  
（農）宮守川上流生産組合 代表理事 多田 誠一 氏
- ④遊水地大区画水田圃場における水稻湛水直播栽培⇒麦⇒大豆の輪作体系確立による営農の安定化と、丘陵地帯農地における高付加価値農産物の模索  
（農）アグリ平泉 代表理事 佐々木 正 氏
- ⑤意見交換：直面する課題や、今後の集落営農の安定した経営のための戦略と問題解決方法等について意見交換した。

参加者：27名

(5) 平成28年度第3回勉強会 「岩手町の薬草栽培の視察研修」

日時：平成28年8月31日（水） 13：30～15：00

会場：薬草栽培現地（岩手町）

次第：視察研修

- ①岩手町での薬草栽培の現状とこれから  
農事組合法人 岩手薬草生産組合 総務部長 伊藤 浩史 氏
- ②現地視察：薬草栽培圃場（シャクヤク、トウキ）、乾燥・調整作業

参加者：12名

(6) 平成28年度活力ある東北農業を創造するためのセミナー（第2回）

「クッキングトマトの普及拡大と商品開発を考える」

日時：平成28年10月26日（水） 15：00～16：40

会場：農研機構東北農業研究センター 大会議室

次第：

- ①そのまま食べてはもったいない「すずこま」  
農研機構東北農業研究センター 業務第1科長 由比 進 氏
- ②岩手大学における野菜ブランド化と沿岸と内陸との流通への取り組み  
岩手大学農学部植物生命科学科 准教授 加藤 一幾 氏
- ③「すずこま」の生産から販売まで ～（農）上小田代の活動紹介～  
農業組合法人 上小田代 代表理事・組合長 伊藤 周治 氏
- ④意見交換：クッキングトマトの安定供給や商品開発における現在の課題を共有し、ニーズを的確に把握するために関係機関に出向き、ニーズと齟齬を生じないように一層の生産の努力をするための今後の取り組み方向について話し合いを行った。

参加者：40名

(7) 平成28年度第4回勉強会 「ダイズ『貴まる』研究会 現地研修」

日時：平成28年10月27日（木） 13：30～17：00

会場：八幡平市松尾地内圃場

次第：

①28年度ダイズ栽培の耕種概要と生育状況

農林水産省産学連携支援コーディネーター 佐川 了 氏

②雑草対策および病害虫対応 栽培者 古川 佑史 氏

③収穫適期判定、収穫時、乾燥調整に関する留意事項

岩手大学滝沢農場 技術専門職員 武田 伸也 氏

④商品化の見通し

ふうせつ花 社長 石田 秀悦 氏、専務 石田 逸平 氏

⑤協力体制と今後の展開とまとめ

農林水産省産学連携支援コーディネーター 星野 次汪 氏

岩手大学 三陸機構・地域創生推進機構 佐々木 靖人 氏

⑥意見交換：収穫適期になった圃場で大豆の立毛を観察し、委託先の収穫組

合への収穫時の留意点を指示し、28年度の大豆収穫後に試作品

を作り、1月に試食会を開催し早期の商品化を進めることとした。

参加者：8名

(8) セミナー「日本食のグローバル展開を考える」

日時：平成28年11月5日（土） 13：00～17：05

会場：東北大学農学部 雨宮キャンパス 講義棟

主催：日本農芸化学会東北支部

共催：東北地域農林水産・食品ハイテク研究会、科学的根拠に基づく高付加価

値日本食・食産業研究開発プラットフォーム等

次第：

①6次産業における産学連携での知財マネジメントを考える

東北テクノアーチ 水田 貴信 氏

②6次産業加速化に向けた人材育成を考える

東北活性化研究センター 小杉 雅之 氏

③日本の食文化を世界に発信 ～醤油を例として～

キッコーマン株式会社 深澤 晴彦 氏

④腸内フローラから日本人の食と健康を考える

九州大学大学院農学研究院 中山 二郎 氏

⑤グローバル展開に必要な保存技術を考える」

東北大学大学院農学研究科 藤井 智幸 氏

参加者：94名

(9) 平成28年度第5回勉強会 「岩泉町の農業の現状と新しい農業創造への提案」

日時：平成28年12月10日（土） 14:00～17:00

会場：ホテル三春（盛岡市繫字舘市9）

次第：

①岩泉から新しい農業の価値を創る

杉山 明弘 氏（（社）岩泉農業振興公社）

②これからのまちづくりとひとづくり」

農林水産省産学連携支援コーディネーター 門間 敏幸 氏

③岩泉でこれからの牛飼いをどうしたいのか

農林水産省産学連携支援コーディネーター 梨木 守 氏

④野菜による新産地形成の夢

農研機構東北農業研究センター 山崎 篤氏

⑤意見交換：台風により岩泉町の農業は壊滅的な被害を受け危機的な状況にあるが、岩泉農業の新たな地平を拓くために、農業経営、酪農、畑作物、果樹、そして地域営農の仕組みづくり等について問題点、復興の方向性等意見交換を行った

参加者：15名

(10) 平成28年度競争的資金への応募に向けた個別相談会（第1回）

日時：平成28年12月12日（月） 9：00～17：00

会場：いわて県民情報交流センター会議室

個別相談：農林水産省産学連携支援コーディネーター等により、応募予定者に対し指導・助言を行った。

相談件数：6件（民間企業、大学、国立研究開発法人）

(11) 平成28年度産学官連携セミナー

「農林水産省における平成29年度競争的研究資金制度説明会」

日時：平成29年1月17日（火） 13：00～18：00

会場：TKPガーデンシティ仙台勾当台2階ホール2

次第：

①説明会

- ・平成29年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の公募について
- ・知の集積公募内容説明
- ・その他の研究資金制度について

②産学官連携による共同研究や共同開発の事例紹介

「GNSS汎用利用による近未来型環境保全水田営農技術の実証研究」

（農水省・革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト・平成28年度第2回公募（実証研究型・水田作））採択課題）

（公大）秋田県立大学 生物資源科学部附属フィールド教育研究センター  
教授 矢治 幸夫 氏

③個別相談会：3件（民間企業、独法）

参加者：62名

(12) 平成28年度第6回勉強会 「ダイズ『貴まる』勉強会」

日時：平成29年1月26日（木） 10：30～12：00

会場：八幡平市立松尾コミュニティーセンター

次第：

①平成28年度「貴まる」の収量性解析

農林水産省産学連携支援コーディネーター 佐川 了 氏

②大豆「貴まる」の栽培に挑戦して

アグリ管理士 古川 佑史 氏

③「貴まる」栽培・管理作業上の留意点

岩手大学滝沢農場 技術専門職員 武田 伸也 氏

④「貴まる」の加工特性と食味

ふうせつ花 代表取締役 石田 秀悦 氏

⑤「貴まる」の産地銘柄品種への取り組み

農林水産省産学連携支援コーディネーター 星野 次汪 氏

⑥試食検討会

貴まるを使用した納豆、豆腐の試食を行い、「プレミアム商品の可能性」が確認されたことから、商品化・販売に向け早急に体制を整えることにした。当勉強会は新聞に掲載された。

参加者：11名

2) 産学連携支援事業

(1) ニーズの収集・把握

農林水産省産学連携支援コーディネーター等による訪問・面談・問合せ対応等により、①生産者や民間企業へ訪問等を行い、技術的課題・研究開発ニーズを収集・把握、②地方農政局、自治体、産学連携支援機関へ訪問等を行い、地域の技術的課題・研究開発ニーズを収集・把握、③必要に応じて、他機関が開催するセミナー、展示会等への参加、④アンケートの実施により技術的課題・研究開発ニーズを収集・把握し、関係者間の連携支援等を行った。

具体的には、民間企業等に対する訪問活動85件、面談対応22件、問合せ対応28件、合計163件を実施し、産学連携推進のための技術相談、競争的資金への申請等を支援した。

訪問、面談、メール・電話対応の件数の推移

活動形態	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	13	5	4	13	8	6	14	9	3	3	2	5	85
面談	0	0	4	3	1	0	2	0	8	2	1	1	22
メール・電話	3	0	3	1	1	1	2	4	2	6	4	1	28

訪問、面談、メール・電話対応の機関種別実績

活動形態	民間		大学		国研・独法		公設試		産学機関		生産者団体	行政機関		その他		計	
		異分野		異分野		異分野		異分野		異分野			異分野		異分野		異分野
訪問	14	0	19	2	5	0	3	2	1	0	27	9	0	7	0	85	4
面談	6	1	3	2	4	0	2	2	0	0	3	2	0	2	1	22	6
メール・電話	8	0	9	6	0	0	6	5	0	0	3	2	0	0	0	28	11

(2) マッチングの支援

高等専門学校が開発した技術について共同研究機関の紹介依頼があり、当研究会コーディネーターにより国立研究開発法人、公設試、大学へ情報提供を行った結果、国立研究開発法人（当研究会会員）と協定研究契約を締結しプロジェクト化を目指すことになった。

(3) 研究資金等の取得支援

① 個別相談会の実施

農林水産省等の競争的研究資金の応募予定者に対し、様々な研究資金制度の紹介、競争的研究資金の応募に向けた研究計画書や提案書の作成支援、ブラッシュアップ等を図るため、個別相談会の開催やセミナー等終了後の個別相談を実施し、コーディネーター等から応募予定者に対し指導・助言を行った。

平成28年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業等11課題について

ブラッシュアップ等の支援を行い応募にいたった。

また、不採択になった課題については、不採択理由の解析・対策の明確化・再チャレンジへの支援を行った。

- ② 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業等で採択された6課題についてアドバイザーあるいは研究支援者として参画し、POと連携の上、事業化等に向けたアドバイスをを行った。

#### (4) 事業化・商品化の支援

研究開発機関（当研究会会員）が開発した「モチ性コムギ」を用いた商品化の相談があり、JA、製パン企業、県普及センター等の関係者で緩やかな協議体を立ち上げ、種子供給体制の確立、栽培指導、商品開発に向け支援を行った。

また、大学で育成された大豆を使用した商品化支援について、大学、行政、生産者等関係者による勉強会や試食会を開催し、商品化の目処（一般市販）がたった。

#### (5) 産学連携に関する連携体制の強化

- ① 平成28年度セミナーの開催において、農政局や知の集積関係プラットフォームと共催で実施した。また、当研究会が主催するセミナー等に対し農業会議、中小企業家同友会、6次産業化支援センター等から後援を受けた。

- ② 農林水産省及び農研機構東北農業研究センターが主催するマッチングフォーラムの開催に際し、後援機関として産学連携支援の協力を行った

- ③ 農業関係機関（農政局、公設試等）の要請を受け、会議、セミナー等にCDをコメンテーター及び講師として派遣した。

#### (6) 産学連携に関する各種支援制度や支援機関の紹介・活用支援

JATAFFから提供された競争的資金に係る公募情報や研究会主催のセミナー、他機関から情報提供を受けた研究情報・セミナーについて、ホームページ、メール等により会員並びに大学、東北地域公設試、民間企業等へ情報を提供した。

また、セミナー等の機会を利用し、情報提供や参加者同士の交流に積極的に取り組み連携支援を図った。

#### (7) 産学連携協定の締結

産学連携による産業振興の促進に協力することを目的として協定書を締結し（2機関）、東北地域における連携支援体制の強化を図った。

- ① 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター
- ② 科学的根拠に基づく高付加価値日本食・食産業研究開発プラットフォーム

#### (8) コーディネーターの能力の強化

- ① JATAFFが「中核型CDと非常勤型CDとが一体となった支援活動のさらなる推進を図る」ことを目的に主催した「知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業全国会議」に5名のCDが参加し、生産現場での先端技術の活用や異分野技術の活用について、話題提供・意見交換を通じて理解を深めるとともに、グループ討議形式のワークショップを通じて、コーディネート活動の考え方・手法について議論し、スキルアップを図った。

(9) 東北地域コーディネーター会議の開催

日 時：平成29年3月13日（月）13：30～17：30

場 所：農研機構 東北農業研究センター 研究C棟セミナー室

参加者：18名（コーディネーター10名、東北農政局、東北農研、東北ハイテク研事務局）

始めに事務局から①平成28年度活動報告、②平成29年度予算説明、③産学連携協定書の締結について④事務局移転及び体制の見直し等について説明を行った

続いて、東北農研産学連携室 佐藤室長から「東北農業研究センターにおける産学連携活動」と題し、東北農研の産学連携体制、地域農研におけるハブ機能の強化・概要、現場でのニーズ収集、関係機関の連携による現地実証、普及・広報活動等について紹介があった。

また、東北大学研究推進本部URAセンター特任講師 竹岡 芳成氏から「中小食品企業と東北大学による商品創出モデル」と題し、東北から始まる世界最高水準の農林水産・食品産業の構築、中小食品企業と東北大学による商品創出モデルについて、講演をいただいた。

その後、今後のコーディネーター活動のあり方、産学連携への対応等について意見交換を行った。